

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M & Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 一階		
所在地	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町14 - 5		
自己評価作成日	平成24年2月11日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネやオオワン等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。又羅臼は漁業が盛んな町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や友人、知人からの新鮮な魚介類の差し入れを頂き皆さんで美味しく頂いております。又多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今まで利用者が利用していた昔から馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が維持出来ています。その他にも町内会や婦人部の方々も慰問に来てくれ、歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業を一緒に日々々の生活の中で役割を持ってもらう。編み物や縫物、書き物等が得意な方には、その事が楽しみ繋がるような声掛けをする事で、利用者が生き生きと生活をしていけるようお手伝いをしています。又、利用者と職員の関係が利用者、職員としてではなく人対人として 共に笑い、共に泣き、時には共に怒り と一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域との連携への取り組み>
開設から5年経過し、散歩や買い物、町内のドライブ等で地域の方との交流や盆踊り等の事業所主催の行事や運営推進会議開催の案内状を配布して参加の働き掛けを行うなど地元の人々との連携、協力を努めている。また、高校生の職業体験や吹奏楽部の演奏会、地元の子供達の「手踊り」の慰問などの受け入れ等取り組んでいる。

<理念の共有とその実践>
今年度、ケアサービスの質の向上をはかる上で職員全員の意見や思いが反映された事業所独自の理念を全ての職員で話し合いを繰り返し、「我が家を感じ我らしく、「意気」の事出来る生活」を事業所の理念として作り上げ、利用者が直筆した理念をユニット毎に見やすい場所に掲示し、職員間で共有し、その実践に繋げている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取組みの成果 該当するものに印	項目	取組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作成し、その理念を共有した支援が出来る様努めている。	職員全員の意見や思いが反映された事業所独自の理念を全ての職員が話し合いを繰り返し、事業所独自の理念として作り上げ、職員間で共有し、実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常生活の中で買い物や散歩、ドライブ等と外出する機会を設け、地域の方とのコミュニケーションの場を作り、利用者が地域と繋がりがながら暮らして頂ける様支援している。行事や避難訓練等も年々参加者も増え以前よりも沢山の方との交流が出来る様になってきている。	事業所の盆踊り大会や野外バーベキューなどの行事、避難訓練の開催の案内状を地域住民に配り参加を呼びかけている。また、高校生の職業体験の受け入れや吹奏楽部の演奏会、地元の子供達の手踊りのボランティアでの慰問など地域との交流がはかれるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れや町内で開催されている2級ヘルパー講習の実習の受け入れの協力を行っている。利用者家族には引き続き毎月のしおさい通信に「認知症の豆知識」を載せ、認知症の理解を深めて頂ける様取り組みをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするともに、運推メンバーからの質問や意見、要望を貰い今後の運営に活かせるようにしている。又、実際行事や避難訓練でホームの様子を見て頂く事でホームでの取り組みに理解を深めて頂ける様しているが、メンバーの中でまだ参加して頂けていない方もいる。	運営推進会議は年6回実施し、近況報告や行事への参加、避難訓練等の参加協力の中での意見交換を行っている。また、委員からの質問や意見や要望を真摯に受け止め運営に活かせるよう職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	クリスマス会や野外昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。又避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂ける様努めている。又、地域包括支援センターとの関わりの中で、STの来町の際にはホームに來所して頂き利用者への個別指導をして頂いたり、スタッフの研修を開催して頂いたりしている。	町の担当者とは、日常業務や事業所の行事への参加を通じて情報交換や意見交換を行い、事業所の実情を理解して貰えるよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、職員会議や勉強会の際には身体拘束について全職員が理解できるよう話し合い、利用者一人ひとりが自分らしく、安心して生活できる場所になる様努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員会議や勉強会の際に、全職員が理解できるよう話し合い、管理者及び職員の認識の共有が行われている。又、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の時等虐待防止について話し合いをし、身体的な虐待に限らず言葉の虐待がない様利用者が制限なく自由に自分の意志で生活できる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な利用者について、行政の方と相談を重ね、その利用者の今までの生活歴や気質等も考慮したうえで、成年後見制度の利用はしない事としたが、その方に一番合った形で書面に残し、今後常に行政の方も一緒に関わりを持ち、ホームとの連携を継続していく事とする。また職員への成年後見制度に対する勉強会をする機会を作り全職員が理解できる様努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得て頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含めいつでも相談できる様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関先に自由に意見を言って貰えるよう意見箱を設置している。又、家族会や運推で不満や意見を言って貰える場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声を掛けて頂ける様にしている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様にしている。	家族が来訪した際に、不満や意見があれば気軽に言って貰えるように取り組んでいる。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。	毎月の職員会議や日常業務を通じて、管理者は意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また随時、面談の機会を設けて個別に話し合えるよう取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には参加出来るようにし、職員会議時に研修報告を発表する事で研修に参加していない職員にも研修内容が分かるようにしている。又、毎月の職員会議には現場に即した内容の勉強会を全職員で持ち回りで実施している。その他法人内研修として他事業所との意見交換や他事業所の取り組みも現場で活かせるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くになってしまいがちだが、同法人内ではあるが他事業所の同業者との交流を毎月1回する事で、自分のホームの中の事だけではなく、他事業所の取り組みや意見交換をする事で職員個々のサービスの質の向上していけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には必ず本人と面談をし、病歴や身体状況の把握を行うとともに利用者本人の言葉から趣味や日常生活の状況を聞き取り、本人の言葉を大切に、本人が出来る限り不安なく安心して利用開始出来る様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には必ず御家族と面談をし、入所前であっても御家族が不安に思っている事や要望等いつでも相談できる事を伝え、スタッフ個々が対応できる様カンファレンス等を通じ情報を共有し、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外泊や外出も自由に出来る事等を伝え出来る限り不安なく安心して利用開始出来る様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、利用者の生活歴や現在に至るまでの経緯を聞き取り、本人の現在おかれている状況を理解し、今後必要と思われる他のサービス利用も含めた対応。例えば利用者の身体状況や家族の状況によっては訪問診療や有償サービスの利用について、又介護用品の必要性等も十分に検討し対応するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、軽作業(掃除、食器拭き、洗濯たたみ等)を一緒に行い、食事と同じものを一緒に食べ、行事等も一緒に楽しみ、困っている事(悩み)等の話す時間を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のしおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。又、体調の変化等は電話にて報告し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重し、昔からの知人や友人にもホームに気軽に来所して頂き、継続的な交流が出来る様努めている。	本人がこれまで大切にしてきたお店や場所を忘れる事がないようドライブや買い物へ行くなど支援を行っている。また、昔からの知人や友人との関係が途切れないよう気軽に訪問して貰えるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について職員は情報を共有し、一人一人が孤立する事のない様、又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様心掛けている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者一人ひとりの思いや希望等さりげない聞き取りをし、又表情や行動からも思いをくみとれるよう努めている。困難な場合は家族にも相談し、ケースカンファレンスをし本人本位に出来る様検討している。	センター方式を活用して、家族や本人の意向や希望を把握し、職員間で情報の共有が行われている。また、日常生活での会話や表情の中からも本人の思いを汲み取れるよう取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族からの聞き取りや本人との会話の中からセンター方式を作成し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方や身体状況を記録に残し把握できるようにし、現在出来る事や、している事を把握したうえで現状維持に努め、利用者個々の意欲の向上を目標としている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に必要な情報をセンター方式を活用し全職員で情報を共有している。又カンファレンスを通じ全職員の意見を参考に本人に現在必要な支援を見極め介護計画を作成している。介護計画作成時には本人の言葉を大切に、必ず家族様との相談も行い家族様の思い、要望を取り入れながら作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用して、アセスメントを行い、本人、家族の意見や思いを介護計画に反映するように取り組んでいる。また、カンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見を取り入れながら作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の中で本人の言葉を大切に利用者個々に記録に残し、当ホームでの日々の生活の中で本人の思いに気付ける様努めている。又、介護計画見直しの際にはセンター方式を必ず行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽受診が必要になった時等、家族が対応出来ない時には職員が対応したりしている。又、町外の受診については有償サービスの利用する等の対応をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の展望台やビジターセンター等へ出掛けたり、地元高校生吹奏楽部の慰問や地元の床屋さんに来て頂いたりしている。又、必要な利用者には歯科医の往診や訪問診療、訪問看護を利用している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所や専門医の受診をしている。又受診の際には情報提供書を提出している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、事業所の看護師と看護経過記録を活用して医療機関と連携している。また、診療所からの訪問診療や訪問看護の利用等で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置により利用者の健康管理を行い、24時間体制で職員との連携をはかっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師配置により病院関係者との情報交換や相談にも積極的に行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては重度化や終末期の在り方として前向きに取り組むをしたいが、地元診療所の医療体制が整っていない為難しい問題である。	本人や家族の意向を踏まえ、早い段階から事業所ができることを十分説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日中、夜間の想定で年に2回行っている。又、火災時の一時避難場所として隣接するデイスービスからの協力も得ている。地域住民からの橋梁体制は完全とは言えないが、少しずつでも協力を得られるよう呼びかけをしている。	消防署の協力を得ながら、年2回日中や夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、スプリンクラーの設置や避難時の職員の役割分担や地域への連絡網も構築されている。	今後は、地震・津波等の緊急時に避難経路や避難場所等の再検討をしているので、その実践に期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を損ねない声掛け、排泄の際の羞恥心がないようにさりげない声掛け等を職員全員が心掛けている。	記録などの個人情報の扱いは、十分に注意しており、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いを言いたせない利用者には1人の時等に声を掛け、本人の思いに沿うような選択肢を提示して、自己決定をしてもらうよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、食事をゆっくりとったり、日々の流れをゆっくり過ごしてもらえるよう利用者のペースを大切に、業務優先になる事のないよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、その日の気温や体調を考慮し、朝の着替えや、髪の設定等を相談しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになる様、利用者の好みのもを聞いたり、新鮮な食材を使い利用者に味見等をして貰い、職員も一緒に食事をし、利用者個々の役割分担をしながら配膳から片付けまで一緒に行っている。	利用者の嗜好や体調を把握し、一人ひとりの力を活かしながら、調理や食事の準備等、一緒に楽しんで行っている。また、地元で採れる海産物や新鮮な食材を取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を毎日チェックしている。記録にその都度残し、職員間で情報を共有している。又、自力での摂取が難しい利用者には、ストローやコップに工夫したり、場合によっては介助にて摂取していただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯ブラシやモアブラシ等で口の中や舌に汚れが残っていないか確認をしている。就寝前には毎日必ず義歯洗浄を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。また、羞恥心に配慮した言葉かけを心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為毎朝起床時に牛乳を飲んで頂き、毎昼食にヨーグルトを摂って頂く事で排便がスムーズに出来るよう支援している。又便秘がちな方については、医師に相談し排便を促す薬の処方等をして頂いている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日に特に決まりはなく、基本的には入浴の時間帯は決まっていますが、希望があれば時間帯をずらす等し、気持ちよく入浴出来る様支援している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が楽しく入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のその日の体調に合わせて休んで頂いたり、足のむくみのひどい時には足をあげて休んで頂いたりしている。夜間については、1人1人の生活習慣に応じ好きな時間に休んで頂いたり、睡眠を促したりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送りして全職員が把握出来る様にしている。又、薬をセットする際には間違えないよう複数名で確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のやりたい事をその日の体調を見ながら、出来る限りやって頂ける様支援している。(洗濯干し、洗濯たため、食器拭き、編み物、ドライブ、買い物等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場は雪が多く風も強い為外出の機会が少なくなってしまうが、その時期以外は外出する機会を出来る限り多くし、個々の希望により町のお祭りや神社への参拝、友人宅への訪問等可能な限り出掛けられるようしている。	日常的に散歩や町内への買い物など一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。また、近郊の観光地へのドライブや外食の機会、町のお祭りや神社等普段は行けないような場所への支援も行って	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も欲しいものがあれば出来れば自分で選べるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかける時にはゆっくりと話が出来るように自室にてして頂いている。手紙が来た時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様返信もしてもらっています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには毎月の季節ごとの行事に合わせた飾り付けや、行事ごとに撮った写真等を貼り楽しめる様にしている。採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、利用者が快適に心地よい環境づくりを心掛けている。	共用空間は広くゆったりとスペースが確保され、壁には行事参加の写真や利用者の習字の作品が飾られ、季節ごとの飾り付けをしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思い思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には自宅で使っていた馴染みのものを置いたり、家族が持ってきた写真や飾り物等を飾っている。また、利用者の趣味(編み物や書き物)は本人が疲れない範囲で自由にやっ頂いている。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真などが持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを張り出し自分の場所が分かるようにしている。トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。又、トイレ内の流すボタンも分かりやすく説明を書く事で自分で認識出来る様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200044		
法人名	有限会社M & Y		
事業所名	グループホーム羅臼しおさい 二階		
所在地	北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町 14 - 5		
自己評価作成日	平成24年2月11日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200044&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは世界自然遺産という大自然の中に位置しており、環境的に大変恵まれた所です。熊や鹿、キタキツネやオオワン等沢山の野生動物を真近で見ることが出来ます。又羅臼町は漁業が盛んな町という事もあり、漁業を営んでいる御家族や友人、知人からの新鮮な魚介類の差し入れを頂き皆さんで美味しく頂いております。又多少町からは離れているものの車で走ればほんの数分の所に今まで利用者様が利用していた昔から顔馴染みの店があり、買い物に行く事で昔からの社会的な交流が維持出来ています。その他にも町内会や婦人部の方々から慰問に来てくれ、歌や踊りを披露してくれたり、昔からの知人も気軽に遊びに来てくれ昔話や互いの近況報告等の話に花を咲かせています。それから当ホームで常に心掛けている事は利用者個々の出来る事、やりたい事を大切にしています。食器拭きや洗濯たみ、掃除等の作業と一緒に日々の生活の中で役割を持ってもらう、編み物や縫物、書き物等が得意な方には、その事が楽しみに繋がるような声かけをする事で、利用者が生き生きと生活をしていけるようお手伝いをしています。又、利用者との関係が利用者、職員としてではなく人対人として 共に笑い、共に泣き、時には共に怒りと一緒に感じながら過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念を基に事業所独自の理念を職員全員で作成し、その理念を共有した支援が出来る様努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	外出する機会を作り、地域の方と顔を合わせる様努めている。また、行事を行う際には利用者家族や地域の方にも参加して頂き交流出来る様心掛けている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元高校生の職業体験の受け入れや、地域の方参加の2級ヘルパー講習の実習受け入れ先としての協力をしている。利用者家族には毎月発行のしおし通信に「認知症の豆知識」を載せる事で、認知症の理解を深めて頂ける様取り組みを続けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや近況報告をするともに、運推メンバーからの質問や意見、要望を貰い今後の運営に活かせるようにしている。又、実際行事や避難訓練でホームの様子を見て頂く事でホームでの取り組みに理解を深めて頂ける様しているが、メンバーの中でまだ参加して頂けていない方も居る。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	クリスマス会や野外昼食会等ホームでの行事に参加して頂いている。又避難訓練にも参加して頂き、訓練終了後の職員の反省会にも同席して頂き、市町村担当者からも意見を頂きながら、実情を理解して頂ける様努めている。又、地域包括支援センターとの関わりの中で T、STの来町の際にはホームに来所して頂き利用者への個別指導をして頂いたり、スタッフの研修を開催して頂いたりしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置している。また、職員会議や勉強会の際には身体拘束について全職員が理解できるよう話し合い、利用者一人ひとりが自分らしく、安心して生活できる場所になる様努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待の防止について話し合いをし、利用者が日常生活の中で行動や発言等に制限なく自由に自分の意思で生活出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な利用者について、行政の方と相談を重ね、その利用者の今までの生活歴や気質等も考慮したうえで、成年後見制度の利用はしない事としたが、その方に一番合った形で書面に残し、今後常に行政の方も一緒に関わりを持ち、ホームとの連携を継続していくこととする。また職員への成年後見制度に対する勉強会をする機会を作り全職員が理解できる様努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書にて十分に説明し、納得を得て頂いたうえで契約をしている。又、利用者や家族の不安、疑問点も含めいつでも相談できる様随時時間を設け説明をしている。又、改正時にも同様詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関先に自由に意見を言ってもらえるよう意見箱を設置している。又、家族会や運推で不満や意見を言ってもらえる場を設けたり、家族が来所された際にも、いつでも気軽に声をかけて頂ける様にしている。利用者については、毎日の生活の中で出来るだけ会話をする時間を作る事で意見や要望を聞ける様にしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用し、管理者は常に職員の意見や提案を聞ける機会を作っている。職員会議に関わらず随時面談をし、職員の声を聞ける環境を作り、日々のサービスに反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の勤務状況や、努力等を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には参加できるようにし、職員会議時に研修報告を発表する事で研修に参加していない職員にも研修内容が分かるようにしている。又、毎月の職員会議には現場に即した内容の勉強会を全職員で持ち回りで実施している。その他法人内研修として他事業所との意見交換や他事業所の取り組みも現場で活かせるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームは遠隔地にある事もあり、交流が縁遠くなってしまうが、同法人内ではあるが他事業所の同業者と交流を毎月一回する事で、自分のホームの中の事だけではなく、他事業所の取り組みや意見交換をする事で職員個々のサービスの質が向上していけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には事前に必ず本人と面談をし、本人の困っている事、不自由に感じている事、希望や要望を聞き取る時間を十分にとり、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、御家族の困っている事や、利用者に今後どうして過ごして欲しいか等を聞き取る時間を十分にとり、家族が制限なく自由にホームに出入り出来る事や、利用者の外泊、外出も出来る事、又いつでも家族の相談を受ける事等伝え、出来る限り不安なく安心して利用開始出来るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、利用者の生活歴や現在に至るまでの経緯を聞き取りすると共に、今後必要と思われる他のサービス利用も含めた対応。例えば、利用者の身体状況や家族の状況によっては訪問診療や有償サービスの利用について、又介護用品の必要性等も十分に検討し対応するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、軽作業(掃除、食器拭き、洗濯たたみ等)を一緒に行い、食事と同じものを一緒に食べ、行事等も一緒に楽しみ、困っている事(悩み)等の話す時間を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合いながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の中での出来事等を毎月発行のおさい通信や御家族の来所時に話して伝えている。又、体調の変化等は電話にて報告し、常に現在の利用者の状況を御家族と共有し、相談しながら支援するよう努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らない様一人一人の生活習慣を尊重し、昔からの知人や友人にもホームに気軽に来所して頂き、継続的な交流が出来る様努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、一人一人が孤立する事のない様、食事時以外の時間もホールに集まりテレビや歌を一緒に聞いたり、お茶を一緒に飲みながら皆で談話をする機会を作っている。又トラブルになりそうな時は職員が間に入る等の対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、これまでの関係を断ち切る事のない様、本人・家族から相談があれば、対応出来る様心掛けている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞き、希望する暮らし方が出来る様努めている。又、表情や行動からも思いをくみ取れる様努めている。困難な場合はケースカンファレンスで本人本位に出来る様検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族からの聞き取りや本人との会話の中からセンター方式を作成し、これまでの生活環境やサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の一日の過ごし方や身体状況を記録に残し把握できるようにし、現在出来る事や、している事を把握し現状維持に努め、利用者個々の意欲の向上を目標としている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際には、ご本人の思いや家族の希望を聞き、カンファレンスを行いスタッフからの情報も集め現状に即したプランの作成をしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のその日の出来事や本人の話していた言葉等記録に残し、職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急遽受診が必要になった時等、家族が対応出来ない時には職員が対応したりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の展望台やビジターセンター等へ出掛けたり、地元高校生吹奏楽部の慰問や地元の床屋さんに来て頂いたりしている。又必要な利用者には歯科医の往診や訪問診療、訪問看護を利用している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、身体状況や本人、家族の希望により地元の診療所や専門医の受診をしている。又受診の際には情報提供書を提出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置により利用者の健康管理を行い、24時間体制で職員との連携をはかっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師配置により病院関係者との情報交換や相談にも積極的に行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としては重度化や終末期の在り方として前向きに取り組みをしたいが、地元診療所の医療体制が整っていない為難しい問題である。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習を受講している。急変時の対応マニュアルを用意し、いつでも目を通せる様にしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日中、夜間の想定で年に2回行っている。又、火災時の一時避難場所として隣接するデイサービスからの協力も得ている。地域住民からの協力体制は完全とは言えないが、少しずつでも協力を得られるよう呼びかけをしている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々のプライバシーや人格を損ねないように、入浴や排泄の際にはさりげない声掛け等職員全員で心掛け対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時等の利用者1対1になれる時に色々な会話をしたり、利用者のしぐさや表情を見逃さない様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のペースに合わせ外出したり、居室でのんびり過ごして頂いたり利用者個々の生活ペースに出来る限り沿える様に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、外出の際にも本人の好みに合わせ相談しながら服を選んでもらったり、髪形をセットしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになる様、利用者の好みものを聞いたり、例えばカレーライスとシチュー両方作り好きな方を食べてもらったりしている。又、職員も一緒に食事をし、下膳や食器拭き等利用者の出来る事を手伝って貰いながら一緒に行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分量を毎日チェックしている。記録にその都度残し、職員間で情報を共有し、水分量の少ない場合には夜間時に声掛けをし、摂取してもらっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には毎食後歯磨きや、うがいの声掛けをし、介助が必要な利用者には歯磨きと口の中の汚れが残っていないかの確認をしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄のリズムに合わせ、時間を見て誘導の声掛けを行っている。又、排泄の失敗があった場合にも本人のプライバシーに配慮し、さりげなく声掛けしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時には必ずヨーグルトを摂ってもらい無理のない排便ができるようにしている。それでも排便が難しい方については医師に相談し薬の処方をしてもらっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まってはいるが、利用者個々のペースや希望に合わせて時間をずらしたりしている。基本的に入浴の曜日は決まっていない。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを尊重し、夜も本人が眠いと訴えがあれば誘導したり、声掛けを行うようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方内容をファイルしており、いつでも確認出来るようにし、薬の変更があった場合には個人記録に記入、申し送りでも全職員が把握出来る様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来る事、食器拭きや洗濯たたみ、ゴミ捨て等を職員と一緒に作業前後には必ず利用者をお願いします。ありがとうございます。とお礼をする事で、やりがいを感じる事が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせて散歩をしたり、希望があれば一緒に買い物に出かけている。遠方な場所は事前に勤務調整をし家族にも連絡をしながら一緒に出掛ける機会を作っている。ただ、季節的に冬場は雪が多く風も強い為外出の機会があまりなくなってしまう。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方も、事業所が預り管理している方も、欲しいものがあれば自分で選び買い物が出来る様している。又、天気の良い時等は職員が代わりに買ってくるようにしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかける時にはゆっくりと話が出来るように自室にてして頂いている。手紙が来た時には本人に手渡し、これまでの関係が断ち切られる事がない様返信もしてもらっています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節ごとの行事に合った飾り付けをし季節感を味わえる様にしている。又、採光の調整やテレビの音量等にも配慮し、利用者が快適に過ごせる心地よい環境づくりを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや食卓テーブルで、気の合った利用者同士と一緒にテレビを見たり、談話をしたりと思思いに過ごされているが、共用空間には独りになれるスペースがない。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の個室には自宅で昔から使用していた馴染みの物を置き、家族の写真や飾り、自分で選んだ花を飾ったり、本人が居心地良く過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食卓テーブルに利用者の名前シールを貼りだし自分の場所が分かるようにしている。又トイレにも大きく張り出す事で分かりやすくしている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員個々のストレスの解消、気分転換をする事が困難	職員個々が生き生きと働ける環境	職員個々が意見を言える環境をつくる。(職員同士でお互いに支え合い、注意し合える関係作り。)	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。